

保護者の皆様

小野市立小野東小学校長

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果について

令和7年4月17日、小学6年生を対象に、国語・算数・理科の学力調査及び生活状況調査が全国で実施されました。本校の結果を全職員で分析・協議し、指導に活かしています。
本校の分析結果の概要は、次の通りです。

国語の結果から

①優れている項目

- 話し手の考え方と比較しながら、自分の考えをまとめることができる。
- 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。
- 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくことができる。



②課題となる項目

- △目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。
- △自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。

【考察】

- 全国とほぼ同程度の結果であった。知識及び技能の「言語文化に関する事項」は、全国の平均正答率を上回っている。普段から言葉を大切にし、辞書引き等を継続して取り組んだ結果が表れたと考えられる。また、記述式の問題についても全国を上回っており、主体的な学びの一環として本校が取り組んでいる「まるごと読みシート」や学びの振り返り等で、書く活動を推進している成果が現れていると考えられる。ただし、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討する能力に関して課題が見られた。

【今後の対策について】

- これまで通り、言葉にこだわった読み取りを重視し、辞書引きを継続するとともに、振り返りや自分の考えを「書く」活動を推進しながら、必要な情報を適切に扱う力を育成する。
- 読書活動を重視し、長文読解に慣れるとともに、児童自身が問い合わせを持って読むことができるよう、学習のねらいを意識しながら授業改善に臨み、「読む」力を育成する。

算数の結果から

①優れている項目

- 平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができる。
- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる。
- はかりの目盛りを読むことができる。

②課題となる項目

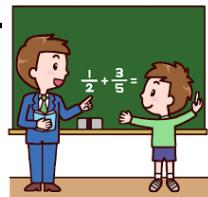
- △数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができる。
- △「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができる。

【考察】

○全国とほぼ同程度の結果であった。「図形」や「測定」、「データの活用」については、全国の正答率を大幅に上回っている。普段から、実際に作図したり測定したり、実物に触れたりする操作活動を重視し、感覚や概念を体で感じることを継続して取り組んだ結果が表されたと考えられる。また、一方で、百分率等の「割合」に関する問題では、正答率が低くなってしまっており、割合に関わる数量をイメージする力に課題があると考えられる。

【今後の対策について】

○数量をイメージしやすいように、問題を読んで図や数直線などで表現する機会を増やす。
○自分の思考過程を言葉や図を使いながら、書き表す習慣が身につくようにしていく。



理科の結果から

①優れている項目

- 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身についている。
- ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身についている。
- 発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができる。

②課題となる項目

- △電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができる。
- △種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができる。

【考察】

○全体的に見て、どの領域においても全国の正答率を大きく上回っている。「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4領域において、バランス良く力が身についている。特に電池の直列つなぎの形や、条件を変えた際の発芽の仕方についての理解が高かった。理科の学習は、実験や観察等による事象の様子や変化を捉えることを重視しており、授業中に行った同様の実験・観察内容についてしっかりと定着していることが考えられる。また、一方で、一つ一つの事象についての理解度は高いが、複数の事象が関わってくる場合には、関連のある知識を適切に結びつけて考えることができにくいという課題があると考えられる。

【今後の対策について】

- 領域の系統性を意識して学習内容を把握し、電気と磁石、動物と植物といったように似通った内容を学習する場合は、既習事項と関連づけて進めていくようにする。
- 観察や実験を行う場合には、できる限り実生活と結びつけた理解の定着を図るとともに、要点を押さえたまとめ方及び思考を整理しながら自分の言葉でまとめることができるよう例示する。

質問紙（生活面）調査の結果から

①優れている項目

- ◎朝食を毎日食べている。 ◎人が困っているときは、進んで助けている。
- ◎いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。 ◎人の役に立つ人間になりたい。
- ◎学校に行くのは楽しい。 ◎地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
- 毎日、同じくらいの時刻に起きている。 ○自分にはよいところがあると思う。
- 先生は、自分のよいところを認めてくれている。 ○将来の夢や目標を持っている。
- 友達関係に満足している。 ○普段の生活で幸せな気持ちになる。
- ◎授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。
- ◎道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

②課題となる項目

- △学校の授業時間以外（平日・休日とも）に、家庭で1日に勉強している時間は、1時間より多い。
- △学校の授業時間以外に、普段、1日当たり読書をしている時間は30分より多い。
- △新聞を読む。



【考察及び今後の対策について】

- 就寝時刻以外は、ほぼ規則正しい生活習慣が身についている。脳の司令塔である前頭前野の発達を促すためには、「早寝・早起き・バランスの取れた朝食」が必要である。
- 自尊感情が健やかに育まれており、自分も他の人もすべて大切な存在だと感じている。人権教育として取り組んでいる SUN 愛ペア活動、友だちのいいところみつけや感謝の思いを伝える活動、各種行事や児童会活動での達成感や充実感、学級での居場所づくりや友だちとの関係づくり等が人権意識の高まりに繋がっていると考えられる。
- 地域愛は大きく、普段から地域に支えられ大切にされていることを実感しているため、地域や社会へ貢献したいという強い気持ちが表れていると考えられる。
- 全国的にも課題となっている家庭学習への向き合い方については、全国比で 15 ポイント以上優れているが、1 日 1 時間以上の家庭学習に取り組むことができている児童の割合が低い。家庭での時間の使い方を振り返るとともに、「家庭学習の手引き」の活用を啓発していく。また、定期テストに向けて、計画的な学習にも継続して取り組んでいく。
- 近年、ネットからの情報に頼り、新聞離れや読書離れが進んでいる。読書習慣は学力と相関関係がある。読書習慣の定着を図るため、週に一度の「読書の日」を設定するとともに、児童会活動としての工夫した取組や朝読書の推進に力を注ぐ。また、家庭での時間の使い方として、スマホやゲーム等で時間を消費しているのであれば、その時間の一部を読書に変えていく等の啓発を様々な場面で行う。

